

# 平成29年7月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 : 平成29年7月28日(金) 9時から11時まで  
2. 会場 : 臼杵市役所 臼杵庁舎3階 301会議室  
3. 出席委員 : 教育長 斎藤 克己  
教育長職務代理者 垂井 美千代  
委員 渡辺 義弘  
委員 野上 美智子  
委員 神田 岳委

## 4. 出席職員

教育総務課長	甲斐 尊	学校教育課長	小林 一彦
社会教育課長	斉藤 隆生	文化・文化財課長	川野 徳明
学校給食課長	安東 信二	教育総務課課長代理	荻野 健
学校教育課総括課長代理	口石 愛	文化・文化財課課長代理	日高 昌幸
教育総務課主査	原 絢子		

## 5. 傍聴人

木村 公治  
佐々木 祐子  
高橋 肇

## 1. 開会宣言

(事務局)

開会に先立ちまして、本日の出席者の報告を行います。本日の出席者5名、欠席者0名で、出席者が過半数に達しましたので、臼杵市教育委員会会議規則第3条の規定により本会は成立となりました。

(教育長)

ここで、事前に皆さんにお諮りいたします。本日の委員会について、3名の方から、会議を傍聴したいという申し出があります。傍聴に関しては、臼杵市教育委員会会議傍聴規則第2条の規定により、どなたでも教育長の許可を受ければ傍聴できることになっています。傍聴は、教育長の許可制ですが、教育委員皆さんの了解があれば許可するというにしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(委員 許可)

それでは、傍聴を許可するというにいたします。

(傍聴者 入室)

これより臼杵市教育委員会、平成29年7月定例会を開催致します。本日の委員会の会期は本日より限りいたします。

次に、会議録署名委員に 渡辺委員と神田委員の2名を指名致します。今回、次第3の協議事項の

うち、「報告第8号 平成29年度文化の日被表彰者の推薦について」と「第38号議案 平成30年度使用小・中学校教科用図書の採択について」、次第6. その他の「公立幼稚園について」、「ヤマコ臼杵美術博物館評価委員会の報告について」を非公開としたいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき、採決を行います。賛成の委員は、挙手をお願いします。

3分の2以上の挙手がありましたので、公開しないこととします。

## 2. 教育長報告

(教育長)

次第2の教育長報告を行います。7月1日は、土曜ふれあい学校がありました。私は下ノ江小学校、下南小学校、野津中学校をまわらせていただきました。下ノ江小学校は、地域振興協議会の協力でグラウンドゴルフやペタンクをしていました。下南小学校は、児童会のふれあい仲良し祭りで、ゲームやおぼけやしきをしていました。野津中学校はフラメンコをやっていました。素晴らしかったです。

3日は校長会がありました。夏休み前の最後の校長会で、子ども達の指導、それから幼保小連携推進協議会で、推進会議で取り組んでいるんですけども、今年から就学前の子どもの姿、あり方を会の中で協議していただくことについてでした。それから同日、国民文化祭の臼杵市の実行委員会がありました。市長を会長として23名の委員で構成しています。後ほど詳細がありますが、来年の平成30年度が第33回国民文化祭、第18回の、全国障害者芸術文化祭が併せて大分県で実施されますのでそれに向けての臼杵市の準備です。

それから4日ですが、これも後ほどお話いたしますが臼杵幼稚園のPTAの保護者8名の方々と懇談させていただきました。色々ご意見をいただきました。

また、5日ですが毎年ありますが県下の市長、教育長、職員で危機管理研修会がありました。今年は昨年の熊本地震の経験からということで、元陸上自衛官の危機管理防災企画官の有浦隆さんが、実践に即した、本当に必要なこととお話いただきました。

次に、6日は山内流理事会がありまして、これは今年の遊泳所についてでした。また、9日が臼杵っこガイド第2回目の実践ということで、ちょうどこの日に蓮祭りがあって、併せて実施しました。子ども達が13人出席しましたが、お客さんの方が少なくて、ちょっと残念でした。

10日は給食運営委員会で、今年運営委員の切り替えがありまして、委嘱、任命、取組についてです。それから、13日に教育事務所の所長にお会いしました。後ほど説明がありますが、幼児教育の方針について、所長が前義務教育課にいましたので、その時に幼児教育のプログラムとかを作っていましたので、ご意見をいただきました。

14日に、歴史資料評価委員会ということで、ヤマコの博物館が今年4月に閉館しましたが、その資料は775点あり、専門の方に鑑定をしていただきました。できれば資料について、臼杵藩の関係が非常に多いのでそれを出ないようにしたいです。それからヤマコさんの方からできれば臼杵に残していきたいということをお願いしておりますので、それを含めて評価をいただきました。

16日から祇園祭ということで、今年も暑い中私も出ましたが、16日に御渡と、22日に御還ということで、両日本当に暑い日で、また日に焼けてしまいました。

それから18日ですけれども、高校生市議会事務局内答弁検討会で、24、25日の答弁書検討会、8月3日に高校生市議会があります。臼杵高校が議長、議会事務局長、質問者5人、海洋科学が質問者3人、質問者が8人ですけれども、そのうち1名臼杵高校のカミヤマイズミさんから教育についてご質問をいただきました。

それから、21日は山内流の開所式があつて、渡辺委員も出席いただきましたが、右側にありますが、開所式の時の数ですけれども、生徒数が96人ということで、うち市外が23人ということです。この日から8月11日まで開催されます。また、同日教科書の選定委員会があつて、議案の中で協議していますが来年度の平成30年に、小学校の道徳が教科化されますので、その教科書についてでした。

23日に、手をつなぐ育成会臼津大会臼津大会で、これは私も初めてですが、県内あちこち回っているといます。知的障害者の保護者部会の臼杵と津久見の大会、県大会ということで、県内から多数の方が集まって、開催されました。来年度大分市で開催されると思います。

それから、25日に県の学力調査の結果が公表されました。後ほど結果は説明いたしますが、先生方が頑張っていたいて、子ども達の成績が今年は非常に良かったということです。

26日から県の中学校の総体があります。この日から28日まで勝ち進めばあります。当日、ソフトテニスと野球に行きましたが、野球は残念ながら津久見にやられてしまいました。

それから昨日、総括安全衛生委員会がありました。今年度は第1回目ということで、委員委嘱と、今年度の計画について話がありました。

今日は、この後明日29日の今年初めての取り組みですが備考欄に書いていますが、臼杵っこワクワク歴史体験教室が、中臼杵の管理センターで土器を作る体験を20人、8月の末にも行う予定です。

それから、30日はご存じと思いますが臼杵庁舎の市民との検討会議があり、公募が17人、無作為抽出で頂いた31人、合計48人の方で検討していただきました。来年2月頃から協議していただくことです。傍聴が自由なんです。この日は市役所の203、4です。見たい方は是非行っていただければと思います。

質疑等がありましたらお願いします。以上で、教育長報告を終わります。

### 3. 議事

(教育長)

これより次第3の協議事項に入ります。報告第8号及び第38号議案に入る前に、傍聴者の退席を命じます。

傍聴人の再入場を許可します。

(傍聴者 再入場)

第39号議案「臼杵市幼児教育推進協議会設置要綱の制定について」説明します。

(教育総務課長)

臼杵市教育長に対する事務委任規則（平成17年臼杵市教育委員会規則第6号）第1条第2号の規定に基づき議決を求めるものです。これにつきましては、数年間の課題でございました幼児教育基本方針について、今年度いよいよ策定することとなりましたことから、幼児教育基本方針の策定された方針を推進するために新たに設置する協議会となります。後ほど詳しくご説明しますが、現在幼児教育基本方針につきましては、幼保小連絡協議会におきまして、現場の先生、保育士の皆さん方から活発なご議論をいただき、今順調に作業が進んでいるところでございます。本協議会につきましては、先ほども申しました通り幼保小連絡協議会で作成された素案をもとに、それぞれの施設、学校の責任者の立場から、素案を吟味し、策定された方針を推進することとしています。

また、委員の構成についてですが、市内、保育所、幼稚園、小学校の代表者、それに加えて有識者というようになっています。それでは、これらを踏まえ改めて設置要綱の仕様条文でございます。

第1条 保育所保育指針（平成29年厚生労働省告示第117号）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年内閣府/文部科学省/厚生労働省告示第1号）及び幼稚園教育要領（平成29年文部科学省告示第62号）の目指す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた臼杵市幼児教育基本方針（以下「方針」という。）を策定し、及び推進するため、臼杵市幼児教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、幼保小連携協議会で議論した方針の素案について吟味し、策定のために必要な事項を協議する。 2 協議会は、方針を推進するために必要な事項を協議する。

(委員の構成等)

第3条 協議会の委員は、保育所、認定こども園、幼稚園及び小学校の代表者、市長の権限に属する職員の代表者並びに有識者から構成し、教育長が委嘱し又は任命する。以上です。

(教育長)

説明が終わりました。質疑等がありましたらお願いします。

(垂井委員)

質疑ではありません。就学前の教育について、兼ねてより斎藤教育長がずっと言い続けて、願って

きたものだと思います。世の中の動きだとか、教育の実態を考えると是非必要なことだと思いますので、その方向で進めていただきたいと願っています。

(教育長)

その他ありませんか。第39号議案については、承認してよろしいでしょうか。

(委員承認)

第40号議案「国宝臼杵磨崖仏保存修理委員会委員の委嘱について」説明します。

(文化・文化財課長)

臼杵市教育長に対する事務委任規則（平成17年臼杵市教育委員会規則第6号）第1条第13号の規定に基づき議決を求めるものです。この6名につきましては、平成29年7月31日に任期が満了となりまして、引き続き委嘱をする必要があるためです。

(教育長)

説明が終わりました。質疑等がありましたらお願いします。第40号議案については、承認してよろしいでしょうか。

(委員承認)

#### 4. 学力向上について

(教育長)

これより次第4の学力向上にはいります。「平成29年度大分県学力定着状況調査の報告について」説明します。

(学校教育課長)

取扱注意と書かれた資料をご覧ください。最初のページが、経年比較ですが、次のページからが分かりやすいので次のページから説明していきたいと思います。臼杵市の偏差値の推移ということで、分かりやすくしています。年度ごとに多少上がったたり下がったりの波はありますが、分かりやすいように県の推移と臼杵市の推移をグラフにしてみました。全体的な平均点が低い場合には、点数だけで見ると下がっているんですけども、県も同じような動きをしているということで、下がっているから、ということではないということです。

見ていただくとお分かりになると思いますが、小5の国語、算数については臼杵の子どもたちがとてもよく頑張っている、今年度29年度の成績が、県は下がっていても臼杵の子供たちは上がっている、特に算数が、というふうな形になっています。小学校の理科が残念ながら県を下回る結果となってしまいましたので、これについては課題として捉えております。

その次のページが中学校です。今年度の県学テについては非常に生徒が頑張ってくれたように思い

ます。特に国語ですが、県の平均を大きく上回っているというのがグラフを見てお分かりになると思います。中学校は全ての教科で県平均を上回っているというような素晴らしい成績です。

次のページをご覧ください。同一児童生徒の偏差値の推移ということで、小学校5年の時の成績と、その子たちが中学校2年になった時にどうなったのかというものを表にしています。県の流れを見ても、小5から中2、やはり内容が難しくなりますからポイントが全部下がる傾向にあります。ところが、下の臼杵市を見ていただきたいのですが、県と同じような流れで下がっているというのがありますが、グラフで言うと赤丸が付いている部分で、臼杵市のこの学年の子ども達は国語が上がっているということです。ですから、県のグラフは下がっていますが総合臼杵市の知識においての国語がぐっと伸びていることが見てお分かりになると思います。

その次のページが、各市の成績がそこに載っています。臼杵市は、小学校が4番、中学校が3番で総合で3番です。素晴らしい成績じゃないかなと思います。次のページをお開きください。6Pで、推移を載せています。白の部分が50点を下っているところで、28年度と29年度を見ていただければ特に下の中学校が白い所が格段に少なくなって黄色がどんどん増えてきているというのがお分かりいただけると思います。分かりやすく拡大したものが17ページです。各小中学校ありますが、50点を下回っているところが少なくなってきている。そして、佐志生小学校、市浜小学校、海辺小学校、川登小学校については2年連続で50超えということで、好事例として県のHPに公表されるのではないかなという見通しがございます。

では8Pです。小学校、中学校毎の具体的な分析をした内容を申し上げたいと思います。まずは小学校5年生の分です。偏差値一覧ということで、国語算数につきましては、ほぼ50越えで、成果が現れているということで、理科が、見てわかると思いますが偏差値50を超えているんですがもう少し頑張ってもらいたいなと思いました。

分析と今後の対応というところですね。学び残し0ということで、しっかりと定着させていこうということ、それから、授業改善の推進を今後も進めて行こう、特に(3)の理科については重点化ですね。理科については分野別になっていますので、分野別の既習事項についてしっかり押さえて行かないと、子ども達も忘れてしまうということがありますので、臼杵市統一の問題の作成、活用を理科についても向けて行こうと考えているところです。「小中一体教育 学力向上部会の活性化」というところを進めて行こうと考えています。

その下の3につきましては、今後の対策ということで、点数が取れている分野と、点数があまり取れていないところということで、枝問ごとに分析をして、とれていなかった部分について、今後努力をしていこうということです。国語につきましては50点を超えています、数値が他のと比べて低い部分を数値が低い所に充てています。また、算数については50点台というのはほとんどなくて、非常に素晴らしいと考えております。ただ、枝問につきましては図形のところの、「正方形の面積を求めることが出来る」のところ、もう少しできていいんじゃないかなと、正方形の面積ですから、一辺×一辺ですね。それが、85%の出来ということで、目標値よりも低かったということがありますので、枝問を捉えて、理解をして行こうということです。それから、「数量関係」の領域についても、折れ線グラフと棒グラフの読み取りを正しくない理由を説明というところが、目標値より低い所があります。

理科につきましては、点数が低い部分が植物の成長、動物の様子、物の体積と温度、観察・実験の技能のところ少しポイントが低かったなという所で、フォローアップとして書いているところを、しっかりやってみようというところです。特に枝問ごとについては、グラフの読み取り、冬の頃のヘチマの様子、春の動物の样子の理解、試験管の向きを変えた時の石鹼膜の変化の様子、鉄道のレールの様子に違いが見られるというという内容の部分ですね。理科についてはしっかり理解して行こうというところです。

10Pについてです。中学校の分です。偏差値一覧について、大きく印刷していますが、これはどうということかと言いますと、社会科のところを見てほしいのですが、社会科の活用の所だけが49.9ということで50を割っているんですけども、順位のところを見ていただきたいんですが、仮に50点を超えていたとしても、数学の知識は10番目です。50を超えているから大丈夫という訳ではない、49.9でも問題ないものもありますので、全体的に見れば5番目なんですね。ですから、50点を超えていてもしっかりと分析して子ども達の不足している部分は振り返りをして定着させていかなければいけないというようなことです。

分析と今後の対応というところですが、そこに写真があるんですけども、中学校学力向上戦略会議というところですね。学力向上支援教員がそれぞれ自分の担当の教科をしっかり細かい所まで分析をして、それを各教科部会に降ろしていく、または小中一体の学力向上部会で、共通理解をして、全ての学校で同じような取り組みを進めていくというふうな流れを作っております。国語は山村先生が支援教員ですが、小学校と同じように数値が高い設問と、数値が低いもの、国語については点数が50点を超えていればよいという訳ではありませんので、その部分をしっかりやってみようということです。昨年度と比較すると、太字で書いていますが、無回答率が格段に減少しています。つまり、空欄にしているところが少なくなっているということです。子ども達が意欲を持って問題に立ち向かい、自分なりの考えをしっかりと大事に、ということです。特に最近は記号とか漢字のように言葉だけで答えるのではなく、文章で答える問題が多くなっていますので、その部分で問題に対して書いて行っている部分が伸びていっているところかなと、それが無回答率の減少につながっているだろうという分析です。白教研に確認することということでそこに挙げています。

数学につきましても、同じように数値が低い所がありまして、フォローアップも載せております。低学力層が減少したということで、かなり点数が伸びてきているというところです。数学部会で確認することとして、計算力として分数になると正答率が下がっているので、分数係数の問題演習が必要という共通理解をして、取り組んでいこうというところです。それから、単元末テストの実施を取り組んで行ってみようということです。

12Pを開いてください。英語、理科、社会についてです。英語については、場面に応じて書く英作文というところが、数値が低いということで、英語部会での確認するところを4点挙げております。単語力、副詞、疑問詞が弱点となっています。Where、How many を使う問題が悪かったというふうな分析、そして現在進行形、be と do の区別というようなところで、一般動詞と be 動詞が一緒になっているようです。

それから理科が、数値が低い所が光の性質、音の性質、地層、エネルギーというふうなところです。白教研理科部会で確認することということで、そこに4つ書いておりますが、単元末テスト等、市内統一の問題を理科も作成して、ということで今までは国語、英語、数学と力を入れてきましたが理科

も同じように、平成30年度の全国学テで理科も行われるということで、力を入れていきたいと思いますということですが、

社会科です。点数が低かったのが、世界の諸地域、飛鳥時代、中世の日本、思考・判断・表現というところですが、社会科におきましても、文で答える記述式の問題が増えてきておりますので、そこら辺に力を入れていかなければならないと考えているところです。白教研で確認するところは、小学校で習っている既習事項を押さえながら行くこと、それから单元ごとに各時代のまとめに单元末テストをしっかりと実施しましょう、そして資料を使って考えることに慣れさせる、子どもたちが話し合いながら説明をさせるような場面を、多く授業に取り入れていきたいと思いますというようなことが、作成されました。今年度の県学テの説明を以上で終わりたいと思います。

(教育長)

今回の県学テの結果と、分析と、今後の対応についての説明をしていただきました。さっき説明があったように、国語は読書のまちづくりを進めてきた現れではないかなというふうに感じています。質問、ご意見等ありましたらお願いします。

(渡辺委員)

市教委も頑張ってきた成果だなと思っています。ご苦労さまでした。今、結果、分析が出たんですが、それぞれの推進教育やら指導教諭やら、そういう方からの分析とか、今後の取り組みのこととか出てますが、市教委として成果が出た要因はどういう所にあるか、という分析をしていますか。

(学校教育課長)

前回の、教育委員会でも27年度、28年度の流れを教育委員さん方にご説明を申し上げたところでございますけれども、やはり先生方の意識改革と、授業改善というものがこの結果を支えているのではないかと思います。昨年、不本意な形になった後既に、授業改善に取り組まなければならないと、先生方の意識改革に取り組まなければならないということで、意識改革のための講演会をしました。それから、当たり前のことを学ぼうじゃないかということで、福井県の戸羽指導主事をお招きして講演会を開きました。このようなことを通して、先生方の意識改革を進めて、学力向上支援教員等が学校の中で、繋がりを持って授業改善に取り組んでいます。どちらかという、年齢のいったベテランの先生はなかなか授業改革というのを踏み出せないところがありますが、今はベテランの先生方に学力向上支援教員の方に声をかけて、僕の授業はどうだろうか、ということで、進められているということです。授業改善につきましては、昨年度賛否両論現場ではありましたが、2月の段階で市教委と大分教育事務所の指導主事による新大分スタンダード徹底に係る学校訪問を、全小中学校で行ったんですね。ですからそこで、2月の終わり3月の終わりに学校訪問ということだったんですけども、それだけ新大分スタンダードを徹底しようという想いが各学校に伝わって行ったということです。両指導主事が奔走して、常に学校を訪問しまわって先生方に助言を繰り返して行ったということが白杵市としての取り組みになっているんじゃないかなと。

そして、校長先生も立ち上がって学力向上プロジェクトもまた市教委と白教研が合体して、春休みの宿題を統一しておいおい対応するような問題も含まれて、中学1年生の学力テストも市内で統一してやろうというふうな流れで取り組んで参りました。それに合わせるように4月から西中が3つの提言の推進校ということに指定されましたので、その取組も4月から西中を中心に教科の横の繋がりも



含め、展開しておりますので、そういう部分で、この成果の背景と言いますか市教委としての取り組みが、子ども達の頑張り先生方の努力によって、現れたのではないかと捉えております。

(渡辺委員)

指導主事の先生から何か。

(安東指導主事)

今、課長が申し上げられた通りやはり授業改善が進んできたところが、垂井先生にもご参加いただきましたが、6月13日に国語の授業講座がありました。それまでは、各校でそれぞれの授業をしていましたが、市全体で努力をして行こうというところが現れたところが授業改善の表れかと思います。

それから、子どもの事実は感覚的なものではなく、結果を、事実を基にしてして行こうとしています。7月17日に、臼杵市基礎基本テストを実施しましたが、すぐに、国語部会と数学部会は情報の供給と次年度に向けての取り組みをしています。以上です。

(村松指導主事)

流れとしては、斎藤教育長の方針であり、小中一体教育の全市展開で、市教委と臼杵市教育研究協議会の連携というこの2つが学力向上の土台として、繋がっていけないかと思っています。意識改革でどう変わってきているかということ、先生方の、主体的、協同的な授業改善に繋がっているのではないかなと思っています。印象ではなく、客観的に数値に向き合って検証、改善を進めて、市教委としてやってきたことはマネジメントで、先生方が主体的に取り組んでいただいた成果ではないかなと思っています。今回の結果についても、結果が出次第学力向上戦略会議の中で、先生方は社会的にどこがどうで、という結果を見たがるというか。その結果臼教研の国語部会、英語部会でこういう事をしていきたいんだという主体的なお言葉をいただきましたし、その中で、市教委だけでなく学力向上戦略会議のメンバーの方々が、月チャレンジの15分でこういう問題を取り込まなければならないのではないかとか、そういった、話し合いながら主体的に、こだわったことをしていました。

無回答率が下がっていていることにつきましては、臼杵市の基礎基本テストですね。1月に行って、2月中に練習、改善をして、ずっと課題だったのが臼杵市の子ども達の無回答率の高さというか。そこは、少しずつ授業改善をし、授業中に書くことが出来るように指導だとか、臼杵チャレンジ15分は、美術の先生も体育の先生も先生皆が、国語数学の問題に対して書いてみようということチャレンジして、やっているかなと思っています。ただ、全国学力学習状況調査については、B問題は思考・判断・表現とありますので、そう簡単にはなかなか書けないのではないかなと心配しているんですけども、今回書くことに繋がったことは、全教職員によるチーム改正というか、そういったことも大きいのではないかなと思いますし、市教委のしたことはミドルリーダーのマネジメントであるとか、ICT環境を整えること、それから生徒指導等で負担軽減のためのスクールソーシャルワーカー配置だとか、色々先生方が学力向上について考えるということのモチベーションを上げて行きました。

(渡辺委員)

ありがとうございます。成果が上がるというのは、市の教育委員会の方針もさることながら、指導

主事の先生方が主導して、各学校に指導していくというか、地道な、積極的な動きが一番これに繋がっていると思います。だからこれからも、是非お二人の指導主事の先生は大変でしょうけれども、今後とも継続して頑張っていってほしいなと思います。ありがとうございます。

(神田委員)

いい成績になりつつあると思います。悪い時には、先生方も、指導主事の先生も、教育委員会も責められて、悪いスパイラルに入っていくんですが、何でよくなったか、ここを協力してくれたから良くなったんですよ、と先生にも言うし、もちろん子ども達にも保護者にも例えば臼杵チャレンジがたったの15分間かもしれないけれど充実したものに一生懸命な時間になることで効率が上がったり、家に帰って勉強時間が増えたり、良いスパイラルになるいいきっかけだと思うんです。だから先生方も、努力されたことがなぜよかったか、こんなに成績が上がったのはこういう事をやったからだ、そして保護者にも市民の方にもきちんと、そういうことによって臼杵市の教育は良い方向に回っていくというとてもいいきっかけになる、それはもちろん先生方の努力もですけど子ども達も一生懸命頑張ったと思います。それがきちんとした形でいいスパイラルになるというというのがさらにいい点数になる気がして、いいチャンスだと思いますのでぜひ頑張ってください。以上です。

(垂井委員)

5月の学校訪問でも、やはり先生方が臼杵悪いな、という危機感を感じていらっしゃるなというのを、わずか5～10分の学校訪問ですが、感じるクラスが児童生徒にそんな言葉をかける姿勢を感じていました。全てのクラスではありませんが、それを感じていました。だから私は、正直言って成績は間違いなく上がると思っていました。本当に嬉しいです。中学の国語には、連絡があるので行かないといけないような、来ることが決まっているというような形で連絡があるものですから必ず行かなければいけないのですけれど、全ての教科が記述式になっていく中で、2、3年前前からなんです、中学国語の教員の中には、全ての教科の記述を支えるのが国語科なんだという意識が全員にあるか、ということですが、はっきり言って全員にあります。言葉の学習は国語科がしっかりしなければどうするんかということがあります。

それから、無回答率が格段に減少というのは、絶対に空欄を作らない、そのために、ある先生はこういう事をしています。マスが10以上あると生徒がもうだめだわ、と思うんですけれども、対策はどうかというと事前に、ここで書かせたいというときに、どの言葉で心情が変わったのですかということを書きなさいではなくて、話し合わせる。書くヒントを、書きなさいの前に問うていく。そういう授業にも変わってきているなと思います。高い能力を持っている子はそれなりに言えるし、低くてもそれを聞きながら自分が書けるヒントをいっぱい出せる場が設定されています。だから授業が、肝心なところで、子ども達に当然仲良くするという指示をしながら、グループでの交流とか、そしてそれを、自分が受け取ったものを書いていくとか、必ず授業の振り返りでも、言葉で書きなさいと言う国語科の授業が増えてきました。

そんな中で、無回答率が格段に減少している。書かなければいけないのに空欄を作ったら絶対にいけないんだ、空欄を作らないで自分は書けるはずなんだという子ども達が増えてきている、ということで、今回の中3生教室の子どもの中にも国語は何をしていいかわかりませんのでよろし

くお願いしますなんて書いてあったりしますが、説明文が苦手だと、説明文のどこが苦手なのと聞くと何も答えられないように、何となく自分で決めてしまっている。

それと長文が段々苦手になっていて、やはり長文を見ながら、ポイントどこでどこでということ、この先国語の活用型が県下で最高値であるというのが国語科の指導がこの頃になって、定着率も小学校の表現力とかそういうことですね、本物になってきているから、知識というのはどれだけトレーニングをしたか、ドリルをしたか、宿題をどれだけさせたかで知識は上がって行きますが、活用が伸びていくのは、これは本物になっているなど。小学校から丁寧に書かせながらやるのが成果として出てきているなど思うんです。それで、皆さんが言ったことですので言わなくていいんですが、言わせてください。外部の色々な方たちが1時間何か言って、刺激を受けて、そりゃあ刺激を受けることもあるでしょうし、そういう事もあると思うんですね。

けれども、意識改革、授業改善の先頭に立ったのは指導主事だと私は思います。言い方が不適切ですが、なりふり構わず学校現場に行って、また来たんか、と言う中で本当に一生懸命分析をして、実態を聞きに行って、また分析をして、資料を作って持って行ってまた指導するという指導主事の熱意と、努力こそが実って行っていると思うんです。何と言ってもそれだと思いますが、その熱意を受ける現場に危機感があって、やろうとするモチベーションが上がって、先生達がとにかくやるんだという雰囲気もできつつありますし、この数字がこういうふうになるということが現場にとって数値が関係あるので、0 コンマ何点の違いだと言っても数値が関係ありますから、この数値がこういうふうになったということが、頑張っている現場にとって本当に励みになっていると思うので、どうぞ教育長も課長も現場に行って皆さんのおかげですと言うように、そして学校は、先生方は子ども達にすごいね、本当に頑張ったねと教育委員会を揚げてがんばったね、すごいねという雰囲気を作っていくことがさらにやる気を、ということを思います。本当にうれしいです。ありがとうございます。これからも指導主事頑張ってください。

学校現場は、児童生徒を褒める。ちょっと気になるのが、国語科において音読力が低下していませんかということです。何故かと言うと、出てくる作文が、全部誤字脱字が多いのと、字は小さい、自信が無いのと、と。あれは、作文を提出する前にもう一回音読してみましようとか言う段階があれば、相当改善されることも含めて、教科書の、とにかく何か書かせなければ、言わせなければ、というのが頭にありすぎて、音読力が、いかがでしょうかということ聞いてみてください。

(野上委員)

データを現実に捉えるとして、点数やデータは戦略にまた繋がって行くので、神田委員がおっしゃったようにスパイラルして行って、学力を上げて行って、先生達が教師としての充実感に繋がって行ったらいいなと思っています。

(教育長)

指導主事のお二方、本当にありがとうございます。以上で、次第4を終わります。

## 5. 教育予算等について

(教育長)

次第5教育予算等について「公共施設整備5ヵ年計画」について説明します。

(教育総務課長)

1 Pです。3番目の非構造部材耐震化事業です。構造部材というのは壁、梁等のことで、非構造部材はそれ以外の天井材、スピーカー、照明器具等を言います。平成27年度までに屋内体育館全ての非構造部材の整備をするとしました。平成28年度につきましては、小中学校の落下防止対策として、吊物のテレビ台の撤去や、備品類の転倒防止を実施しました。平成29年度におきましては、海岸部の小学校である、臼杵小学校、佐志生小学校、海辺小学校の廊下側の窓ガラスの飛散防止対策を行っております。このうち、予定ですが平成30年度におきましては、福良ヶ丘小学校を除く9校のガラス飛散防止対策を実施する予定となっております。平成31年度には、中学校3校におきまして、ガラス飛散防止対策等を行います。

続きまして、次の項目で、3 P目をご覧ください。11の学習環境改善授業についてです。具体的に申しますと、学校におけるクーラーの設置事業になります。これまでの取り組みといたしましては、平成28年度におきまして、西中学校及び野津中学校に設置しています。今年度においては、残りの東中、北中、南中において、整備を行います。この後の計画について、平成30年度からは、小学校について実施設計、31年度から34年度にかけて順次市内の小学校の整備に入りたいと思います。優先準備を付けて行いたいと思いますが、優先準備の付け方について、学校の規模、熱中症チェッカー等による各教室の温度等の状況と勘案しながら、優先順位を決めて取り組んで参りたいと思います。以上で教育総務課の五ヵ年計画の説明を終わります。

(学校教育課長)

学校教育課については、3つです。まず、4 Pの1です。ICT教育環境整備推進事業について、子ども達の興味、関心、主体性を高めるにはICTの活用が欠かせないということで、小学校3年生以上の教室に、パソコン、大型モニター、タブレット端末を各1台ずつ設置するというふうなことになっています。1次計画の実施効果に伴い、2次計画、子どもの発達段階に応じた情報能力と情報モラルの向上をはかる、ということで2次計画を行うということになっています。

2つ目は、5ページをお願いします。8番の、学習サポーター事業ということで、30年度より名称をアシスタントティーチャー事業に変更しようということです。平成29年度は、高校生、大学生が小学校、中学校に入り学習支援を行うということで、高校生学習サポーターということで、各中学校に入らせていただいています。それから、学力向上のために、退職校長、退職教員が習熟度別の学習や個別指導を行うということで、今年度はアシスタントティーチャーと命名しました。中学生の、通級教室適応の生徒に対する個別指導を行うサポーター事業ということで、2本立てにしました。30年度は、名前をアシスタントティーチャー事業というふうに変えて取り組んでいるということであり

ます。

3つ目は、6ページの14番目をお願いします。スクールソーシャルワーカー活用事業ということで、先生方ではなかなか入り込みにくい部分を野上教育委員さんに作戦を立てていただいて、相談、役割分担をしながら子ども達、保護者に係る部分もやっていただきました。家庭に問題を抱える児童・生徒の環境改善、いじめ、不登校、暴力行為など児童生徒の問題行動を未然に防ぐために医療・福祉・保健を繋ぎ、問題解決を図る人材を育成するということで、今年度、事業の方からソーシャルワーカーを増員して、取り組んでいます。チーム学校ということで、学校だけではなかなか十分な支援が出

来ないところなんです。以上が学校教育課から3つの計画です。

(教育長)

13の説明もお願いします。

(学校教育課長)

グローバル育成ということで、英語が教科化されるので、英検を受ける子ども達の支援をしようということで進めています。小学校3・4年生の英語活動及び5・6年生の英語の教科化に伴い、英語に親しみ、英語力を身に付ける児童生徒の育成のため、英検を受験する費用に対し補助し、グローバル人材の育成を行うということです。

(社会教育課)

続きまして、社会教育課です。7Pをお願いします。1番の臼杵市中央公民館大規模改修事業です。ホール、吊物ワイヤーの改修を行っています。託児室、和室、ロビーを新しくしようというふうにやっています。お盆過ぎには完成というようになっており、今外から見えますが、非常に明るい空間になっています。来年度は外装改修工事を雨漏り対策としてやっていきたいと思います。事務室のガラスブロックの壁ですが、明るくていいですが安全性について問題があるということで、ここをやっていきたいと思います。

続きまして8Pをお願いします。諏訪山体育館施設改修工事ということで、昨年度施設の調査を行いました。耐震上は問題ありませんが、各電気、給排水等の設備機器、それからトイレ等が一切更新されていないということで、これからどうしていくか実際のプランを詰めていかなければいけません。更新並びに市民からの要望が出ていて、トレーニング室が手狭になっているのをどうしたらよいかを含めまして、このまま進めていくのか、立て直しをするのか大きく考えられますが、全体としてはかなりの金額がかかるということで、公共5ヵ年に挙げています。

続きまして、10P目です。17番ですが、野津地域市営体育館ですが、8Pの戸上体育館の改修、それから9Pの13番の都松・田野地区体育館解体工事ということになっています。野津地域の廃校になった体育館は耐震補強をしていません。地域で利活用されていますが、共有スペースとしての体育館のあり方を考えながら、検討して行きます。

次に18番について、臼杵図書館開館100周年記念事業ということで、記念式典や講演会を来年度検討して行きたいと思います。以上です。

(文化・文化財課長)

11Pから14Pまで、19項目挙げています。1、2、3番は臼杵磨崖仏ということで、1番につきましては、前回もお知らせしましたホキ1群の工事と、ホキ2群の設計ということで、30年度にホキ2の工事を終了し、平成30年度には事業を終了するという形になります。また、法面から水が磨崖仏の方に流入しているので、それも併せて実施するというので30年度には終了するという形にしております。

5番の着生生物についてですけれども、これも新たな2つの金剛力士像について実施しながら将来的に平成22年度から継続という形になると思いますが、着生生物の除去ということで検討しています。

7番です。下藤キリシタン墓地保存整備事業ということで、現在国指定に向けての準備をしているところです。国指定を持たなければ平成32年から33年にかけて保存整備計画、35年から36年にかけて、施設整備という形に進めて行きたいという風に考えています。

続きまして13Pの14番です。市民会館施設整備事業です。築後25年程度経過しています。各施設が傷んできておりますので、その改修工事ということで、予算計上をしているところです。また、併せて市民会館の活用というところで、今年度内部検討を進めていきながらある施設を友好的に使うという所の方針を出して行きたいと考えているところです。以上です。

(学校給食課長)

15Pをご覧ください。臼杵給食センター、野津給食センターも、施設設備の老朽化に伴う改修について載せております。30年度に最終計画を行っていきます。以上です。

(教育長)

全部の説明はできませんでしたが、要点だけの説明になりました。委員の皆さま、教育予算に関して何か要望等ございませんか。

(渡辺委員)

学校教育課の11番の、新規事業で中学校ブロックに1名ALTを置くということで、今市全体で2名ですかね。これを中学校ブロック単位で1名ずつ置くということで、4名にするということですかね。

(教育長)

まだ全然予算がついていないです。

(渡辺委員)

これから検討するということですね。分かりました。

## 6. その他について

(教育長)

次第6.「幼児教育基本方針策定の経過等について」説明します。

(教育総務課長)

先ほどの39号議案の、幼児教育推進協議会設置要綱の制定の中で、現在幼児教育基本方針の素案としまして、現場の先生方と、幼保小連絡協議会の中で行っています。本日はこれまでの相談で出た作業内容、あるいはこれからの取り組みの方向性について、ご説明をいたしたいと思いますので、是非皆様のご意見、ご助言等いただきたいと思います。具体的な内容につきましては担当口石より説明をします。

(学校教育課総括課長代理)

先ほど議案にも提出していましたが、現在、小学校に上がる前のお子さんは幼稚園、保育園、認定

子ども園、家庭というそれぞれの立場で育っていますが、就学前までに育ってほしい子どもの姿ということを確認に示して、それと身に付けたい力を明確に示すために、この方針を作ろうというふうにしております。ホッチキス留めにしてある資料は、7月31日に第二回幼保小連携協議会の中で、使用する資料をそのまま配布しています。平成29年6月30日と書いてありますが、6月19日に実施しております。

6月19日の第1回幼保小連携協議会の中で、皆さんに説明させていただいたのは、平成30年度に改定される幼稚園教育要領と同時期に改正される保育所保育指針幼保連携型認定子ども園教育保育要領に示す育みたい資質、能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿というのが同じ表現で明記されたということを受けて、臼杵市においても、幼児期の教育と小学校教育の連携を図りたいということで、皆さんにお願いをしております。要領が示されていますので、そこからどうするのか、という話し合いをするのも可能だったんですが、まずは臼杵市の保育園、幼稚園、小学校1年の担任の先生が就学の時にこんな子供になってほしいんだという自分の今の想いで、願いという所をまず増やしていただきたいということで、グループワークから始めました。

日頃の想いや考え、就学前の子供の理想とする姿を語り合ったところから始めたいという所で、4つのグループに分かれていただいて、まずは自分で自分の考えを書く。それからグループワークで自分の考えをまとめていくという作業をしていただいたら、1つのグループの中では、80項目に亘る身に付けたい力、目指したい姿というのが出ました。それくらい活発に皆さん議論をしていただいています。まとめたところから、皆さんにお願いしたのは今現在臼杵市では15歳の臼杵の子どもの姿という所で、学ぶ力、誠実さ、たくましさ身に付けた臼杵大好き臼杵っこというキャッチフレーズがありますが、それと同じように就学前の育ってほしい子どもの姿、〇〇を身に付けた臼杵っこということを作って行きたいというところをお願いしています。グルーピングしてタイトルを付けていただいたので、タイトルの中から、〇〇の部分に、入る候補として事務局の方で抜き出しをさせていただきました。その後、第1回幼保保証連携協議会の中で、幼稚園から3名、保育園から3名、小学校の代表から3名という代表者を選んでいただきまして、4月10日に代表者会議を行いました。その中でも、候補の中から自分が良いなという言葉を選んでいただいて、その後グループワークをして、就学前の子どもの姿をイメージすることに適した言葉ということを協議していただきました。

その1枚目の真ん中より下のところに、グループワークで検討した結果候補として残ったもの、また新たに追加された候補が書かれています。これらを基に、全員で色んな検討をした結果2枚目を見てください。

議論を行った結果、「しらしんけん遊ぶ」ころもからだも元気な“臼杵っこ”というのはどうかというところで、今現在代表者会議の中では、これを進めたいというように提案したいというふうなところまでいっています。これには、先ほど候補で残りましたというところが色々あったんですけども、しらしんけんという言葉は一心不乱にとか、無我夢中にとか集中して遊び抜く子どもという姿を、方言を使って表すのはどうだろうかというところからしらしんけん遊ぶというところが出てきます。また幼児教育は遊びというところから全ての学びがあるということで一生懸命遊ぶ中で、感性を養ったり意欲を育てたり学びが芽生える。そして、遊びの中から経験が出来、色んなことに気付き、そして友達関係、人との関わり、優しさ、たくましさ、我慢強さなどの人間性を育てることができる

んではないか、そして色々なことに興味・関心を生み、自分でゆっくり考え、工夫し、表現する豊かな発想、思考力、判断力表現力が培われる、そして遊びの中で挨拶や片付け、手洗いうがいなどの生活習慣の確立、これらのことが全て遊びを通じて育てることができるのではないかというそういう気持ちを込めて「しらしんけん遊ぶ」という言葉になります。

また、その後に健康な子どもというアイデアも出たんですけれども、現在病気の子どもがいるので健康という言葉を使うと誤解が生じる場合があるということで、どういう子どもも、心も体も元気な子供に育ってほしいんではないか、この言葉で臼杵っこのイメージを湧かせることが出来るのではないかというところもありまして、「しらしんけん遊ぶ」こころもからだも元気な“臼杵っこ”という表現を現在しています。これについて、また7月31日の全体の会議の上で皆さんのイメージする6歳の就学前までに育ってほしい子どもの姿がイメージできるかということを確認したいと考えています。配布資料の3ページ目に今言ったところを言葉として表現しています。これも、皆さんから出た意見を事務局で文章にしたという所になっていますので、31日にこれについても委員の皆さんにご意見をいただくようにしています。

4ページ目をお開き下さい。その基になったのが、6才までに身に付けたい力をまとめましょうということで、日にちが間違っています。6月19日に各グループでアイデアを出し合ったものというのがありまして、それをどのようにまとめるのが良いかということで、事務局で作りました。7月10日の代表者会議の中で検討してもらい、身に付けたい力を皆様から、教育という所で少しグルーピングをしていきました。そして重なる部分が沢山あるなというところで、教育としては発達の特性に応じた「しらしんけん遊ぶ」中で学ぶ力の基礎を育むということです。そして、保育としてという所は家庭や保育環境の中で大人のぬくもりと愛情を受け基本的な生活習慣を身に付けますということ、そしてこういうのが6歳の就学前までに身に付けていければということで、これにつきましても、来週あります7月31日の中で、この枠組みはどうかということで、検討して行きたいと考えています。

5Pをお開き下さい。今言いました、具体的に身に付ける力を抽象的な言葉に置き換えるという作業を7月10日の代表者会議の中で実施していただきました。抽象的な言葉に置き換えたものと、国が示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿という10本の柱がありますけれども、その10本の柱の整合性を確かめるという作業をしました。10本の柱と臼杵市幼保小連携会議の意見を比較すると、全て入っているという検証までが出来ている状況です。さらに、国が示す10本の柱に、臼杵市では郷土愛が入っておりますので、11本の柱としてまとめていくという方法もありますし、10本のところに入れ込むという方法もありますし、その辺も幼保小連携会議の中で、議論を進めて行きたいなと思っています。具体的に就学前にこういう力をつけたいという所を、もう少し深めていきまして、方針の冊子にまとめていきたいと思っています。ただまだ途中経過で何も決定したことはありませんが、こういう議論、経過を辿っているということをお知らせしまして、何かお気付きの点や、このようにしたらどうかというアイデアをいただきながら、進めたいと思いますので、お願いします。説明は以上です。

(教育長)

幼稚園・保育園・小学校の連携推進協議会について、具体的に作業を進めています。色々な意見を



いただいて、まとめながら作業をするということで、議案の中で、臼杵市幼児教育推進協議会の設置要綱をいただきましたが、今進めている作業を確認している形になると思います。推進協議会の中で、作業を進めている部分をまとめたものを、協議していただくということになると思います。意見等がありましたらお願いします。

(野上委員)

教育者や保育者にとって、基本的な生活習慣という基本的なところは、良く分かります。けど、一般の色んな知的レベルの保護者にとって基本的な生活習慣といった時に何のことを言っているのか分からないということが多くて、ここをどこかに噛み砕いた、抽象的な表現はこれでいいと思いますが、基本的な生活習慣というのはこういうところだよ、と出していただければ受け取る人たちが具体的に分かりやすいというか、ここが出来ていない子が多くて、小学校も中学校も私が見た時に基本的な生活習慣の確立を小学校でも中学校でも目標に出しているんだ、というのがとても不思議なので、分かりやすくしておいてほしいなということです。よろしくお願いします。

(渡辺委員)

言葉なんですけれど、しらしんけんというのは臼杵の方言ですか。

(学校教育課総括課長代理)

大分の方言としてですね、辞書で調べたら出てきました。

(渡辺委員)

イメージとして、県北の言葉というのがありました。また、イベントで使うテーマなら良いんですが、そういう感じを受けました。

(垂井委員)

6歳までに身に付けたい力、おそらく挙げたのを書いているんだと思いますが、整理をして、また分かりやすいようにきちっとする必要もあるんじゃないかと思います。どこかの会議で知力、学力、体力ってなんですかと言われたので、やはり基本的な生活習慣とこんなに言われているのに、浸透していないというか。生活リズムと言えば、生活リズムに必要なことかなと思いますが。とにかく、知力、学力、体力ってどういう事ですかと、先生達だけが使う言葉ですかと言われたことがあります。6才までに、ということなので分かりやすくするのがいいと思います。

(教育長)

ありがとうございます。これからの作業に役立てたいと思います。それでは、次第6. その他の「公立幼稚園について」と「ヤマコ臼杵美術博物館評価委員会の報告について」に入ります前に、これ以降閉会まで非公開といたしますので傍聴者は、退席をお願いします。

以上で、次第6を終わり、これもちまして、7月定例教育委員会を閉会します。

会議録署名委員

---

会議録署名委員

---

会議録作成者

---